



自己紹介

ボート、中国、ランニング・ 登山から学んだこと

西田 篤 会員

改めまして加入のご承認を頂き、また、本日は新会員のスピーチということで、お時間を頂戴しまして、誠に有難うございます。

銀行員としてのロータリークラブへ参加させて頂くことは、大変有難い一方、多くの皆様とは異なり、2年前後という短いお付き合いとなってしまいます。その短い期間に少しでも皆様に自分を知って頂き、そして皆様から多くを学ばせて頂きたいと思っています。本日も限られた時間ではありますが、まず私を知って頂くために、改めて自己紹介をさせていただきます。

私の経歴の中で特徴的な珍しい経験としては、「ボート部」と「中国生活」があります。これらの経験を通じて学んだことや大切にしていることについて、お話しできればと思います。

まず、ボートです。ボートを通じて学んだのは、まず「謙虚と自信のバランス・両立の重要性」です。私はボート選手としてはとても身体が小さく、特に体重は当時、女子の軽量級でも出場できるサイズでした。こんな私が人並以上、日本一を目指すには人と同じことをやっていたはダメです。ボート部では1年の300日以上を合宿所で過ごし、ひたすらボートに打ち込みます。昨日より今日、今日より明日、速くなるためにどうしたらいいか、身体を大きくするため吐きそうになるほど食べ、体力増強に励むというのはもちろんのこと、数少ないボートについて書かれた書籍を読み漁ったり、時には組織を越えて他大学や社会人に練習をお願いしたり、時には名コーチといわれる方を求めて福島まで出かけ教を請うたりしました。そうした時に心掛けるようになったのが、謙虚に学ぶということです。試合に勝てるようになってくると、ややもすると自分はすごいんだ、何でも知っているんだ、と傲慢になっていきますし、アドバイスも耳に入らなくなっていきます。でもそれでは成長が止まってしまいます。耳を傾けるべき相手は、自分より強い人、先輩、コーチではありません。チームメイト、後輩も含め、何かしら気付きを与えてくれるものです。こう意識できた時に成長を感じることができました。そして謙虚に学んだ後、実行するときには、謙虚さではなく、自信がとても重要になってきます。自分は強い、速いと信じる、勝利をイメージする。これが実際の速さに本当に影響を与えたと思います。これが1点目です。

次が、「相手を知ろうとすることの大切さ」です。謙虚に学び、自信を持ったことでも、それを人に伝える時には、相手の立場や気持ちを理解することが大切です。たとえ正論であっても、相手の置かれた状況、立場、気持ちによっては、正論として受け止めてもらえないこともあります。正論を受け止めてもらえない状況では、相手の気持ちを完全に理解することは難しいかもしれません。ですが、知ろうとすること、知るための努力はできます。そうすることで、伝え方も変わってきます。受け入れられることも増えていきます。そして、このようにコミュニケーションが確りと取れ、思いを共有でき、同じ目標に向かったベクトルが合わさったとき、それぞれが一人では発揮できない力が発揮でき、全体としても $1+1=2$ 以上の力になるということを経験できました。これらは、例えば中国で現地の部下を持った時も、その後帰国し、全世界の部下を持った時も、チーム作りで役立ったと思います。

2つ目が中国についてです。皆様、中国についてどういうイメージをお持ちでしょうか？いろいろなご意見があると思いますが、総じてみると日本人は中国のことをあまり好きではありません。私も上海に赴任する前は、上海以外を希望していました。しかし、行ってみて暮らしてみても、変わりました。住めば都、ということもあるかもしれませんが、一般的な日本人の中国観とはあまりにも異なることを身をもって知ったからです。

2012年のビジネス3誌の中国特集の表紙をご紹介します。当然こうした雑誌の出版社からしますと、読者受けを重視します。通り一遍のタイトルでは、見向きもされません。日本ではこのようにネガティブな中国情報のシャワーを浴び続け、然程関心のない人も含めて、中国に対して批判的な先入観を持ってしまっています。ある統計では、日本にいる人の95%は中国情報をTVや雑誌等の報道から得ているとされています。しかし、現地で暮らして、仕事をして、中国人と接し、中国を知るようになってきますと、そのギャップや誤解に気づきます。現地にいますと、日系以外の外資系企業は積極的に投資をしているのを目の当たりにします。もちろん、うまくいかないケースもありますが、多くは利益を上げています。中国にネガティブで慎重な日系企業だけが、大きな機会を逸している状況を見て、日本の将来のためにもこれはいけないと痛感していました。現地駐在員は、日本の本社との温度差に常日頃悩み、その温度差を最も手っ取り早く修正するには、現地に連れてくることだと、よく話されていました。従いまして、中国を知るには「冷静に」「客観的に」「できれば自分の目で」「数字などの事実・ファクトを確かめる」ことが重要ということがまず1点目です。

2点目は、中国の人口は日本の10倍以上。従って、優秀な人材、善人、悪人、いずれも10倍以上いるということです。これはあまりにも当たり前のことのように、実は認識されていないことかと思います。例えば、国家公務員の人数も、2015年のデータですが、中国は716万人、日本は64万人と10倍以上です。コロナ前、まだ多くの中国人が来日していた頃、ご記憶の新しいところでは、「爆買い」に代表される、少し行儀の悪い中国人、というイメージをお持ちかもしれません。でも振り返れば、日本でも同じような人はいる、若しくは、いたのではないかなと思います。た

だ、そういった人々も10倍以上いる訳で、当然目立つ訳です。こうした目につく部分とネガティブ報道の相乗効果で、イメージが必要以上に悪くなっているように思えます。こうした情報バイアスを抑える上でも、やはり冷静に、客観的に、自分の目で、事実を確かめることを、大切にしていきたいと感じているところです。

最後に、最近の趣味であるランニングと登山についてお話しします。まず、一人で走ったり、山に登ったりしていると、当たり前ですが、黙々と同じ動作を繰り返し、負荷もかかって身体も徐々に疲れていきます。一方で、なぜか頭は逆にすっきり、シャッキリしていきます。こうして、仕事やプライベートのことなど、様々な情報が「整えられ」、次は何をしよう、というアイデアや意欲がわいてくる気がして続いています。

また、定期的に、特にランニングは毎土日に続けていますが、同じペースでもしんどく感じたり、感覚よりも早く走っていたりと、体調の微妙な変化に気づくことができます。「自分の今を知る」ことができます。

そして、最後に「止まる勇気、引き返す勇気」についてです。これは、ランニングでも登山でも、変調を感じた時にどこまで突っ込むか、どこで引き返すか、判断が求められるタイミングは少なからずあります。折角準備してきたので、できればゴールや頂上を目指したいという気持ちが大きくなるのですが、更に突っ込んでも良いことはありません。人にも迷惑をかけてしまいます。いかに勇気をもって決断するか、これは普段の仕事でも生活でも通じる感覚だと思います。

以上、取り留めないお話しで大変恐縮です。若輩者のスピーチということでご容赦ください。本日はありがとうございました。